

第11分科会

やってよかった公開保育

～公開保育を活用した保育の質向上システム・

ECEQ でともに学びましょう！～

ディレクター名	藤島 秀恵 (リンデ幼稚園)
司会者名	原田 由美 (認定こども園いずみ幼稚園)
話題提供者名	又江 裕美 (認定こども園白藤幼稚園)
話題提供者	野原 仁美 (認定こども園白藤幼稚園)
助言者名	安達 譲 (認定こども園せんりひじり幼稚園 ひじりにじいる保育園 園長 大阪教育大学 非常勤講師)
会場	認定こども園白藤幼稚園
参加人数	82 名

幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであるという認識が高まってきている今、幼稚園や認定こども園において、環境を通じた質の高い幼児教育・保育が行われることは、きわめて重要です。

平成30年度に幼稚園教育要領の改訂、さらに幼児教育無償化等も進められようとしています。幼児教育の重要性の認識が広がるとともに、公的役割が高まり、それにふさわしい基準で幼児教育・保育を行っていくことが求められる時代となりました。

ECEQ の公開保育は、実施園のみならず、公開保育に参加した先生方にとって、保育の質について考えたり、対話と振り返りを重ねる重要性について学んだりする機会にしたいと思います。

研究の手がかり

- 保育者が「問い」として、保育の中で課題を示し、参加者（外部）の視点を通して自園の良さや課題を再確認するとともに、改善の方向性を明らかにする。
- 公開保育を活用した幼児教育の質向上システム・ECEQ を体験し、自園の保育も振り返ってみましょう。
 - ・参加者の自園の良さや課題について
 - ・同僚性について

【話題提供】 白藤幼稚園

ECEQのプロセスSTEP1・2・3を経て、6月より公開保育に向けた開
づくりを行ってきた。園内での課題や知りたいことをまとめ、各学年ごとに問い
を掲げ、公開保育を行う。

3歳児

4歳児

5歳児

友達のかかわりが増え、こっこ遊びをしたり、ブロックでお家を作っ
たりして自分たちのイメージの中でそれぞれの遊びを楽しんでいる。あそびが
増え、水遊びや泥遊びに興味を持ち始め、水や泥の感触を楽し
んで遊んでいます。遊びが盛り上がり、それぞれの遊びを大切に十分楽し
めるようにしたいと思い、コーナーの配置を変えたり、広くスペースがとれる
よう工夫してみました。

また、泥遊びは子ども思い切り遊んで欲しいと思い、保育者が一緒に
遊びながら遊び方を教えたり、声をかけたりしていますが、泥のある子や
少し触っただけの子が多く、泥遊びの楽しさに気づいていない子どももいます。

【問1】

それぞれ好きな遊びを展開しているが、コーナー分けをしたり、子ども
の姿に応じて必要と思われる物を準備したりして環境を整えてきましたが、一
人一人が楽しめているでしょうか、良かった点や改善点があれば教えてください。

【問2】

今日の子ども達の様子を見られて、より楽しんで遊べるような環境設定
や遊びの中での保育者の声のかけ方・かかわり方について、アドバイス
はありますか。

遊具が壊れたことで新しい環境に戸惑う子どももいましたが、安心して
遊ぶようになり、現在はこっこ遊びや鉄棒・土の感触などを通して新しい環境に
も目が向くようになってきたので、友達とイメージを共有しながら一緒に遊びを
楽しませたい、かわりがあってもいいと思っています。

年長児が色水を作っているのを見て興味を持ち、始まった年中児の色水遊び、友
達と比べ、色の違いに興味したり、他の草花でも色水がでるのか試したりと遊びが
広がって来ました。保育者の「ジュースみたいだね！」という声かけによりジュ
ースや色水遊びと進化しているところ。子ども達から主体的に遊びを進めてほ
しいと思い、思いがけたり探求したりしているのですが、なかなか言葉が出ず、ど
こまで声をかければいいのか、どこまでかかわればいいのか戸惑っています。

【問1】

子ども達の想像力を伸ばすために保育者のかかわりは適切でしたか。
また、子ども達の積極的に遊びを楽しむ意見を引き出すときの注意点があれば教
えて下さい。

【問2】

積極的に遊びに参加している子がいる反面、遊びに興味のない子やすぐに
飽きてしまう子に対して保育者はどのような配慮や声かけが必要かと思われ
ますか。

【問3】

これから色水遊びを楽しみたいと思うのですが、他に子ども達が興味をもって
遊びを展開していけるような遊びがあれば教えてください。

大構とび・虫探しや昆虫を製作して友達と遊んだり、それぞれの遊
びを楽しんでいます。特に最近にいるダンゴムシを捕まえて育てば、
牛乳パックにたくさん集めています。虫をただ集めるだけではなく、
虫の生態について探求したり、小さい虫にも命があるということに気
付き、大切に卵を育てる必要を育てたいと思い、子どもが主体的に活
動できるように、虫探しや飼育の道具を揃えたり、図鑑を置くなどの
環境を整えました。少しずつダンゴムシやその他の虫を見つけて捕まえて
くる姿が増え、探求も育ってきたように思いますが、虫の大切さや
優しく扱うことが出来ていない気がしています。

また、それぞれの個性が強く、毎日の遊びや製作したいものが違
うので、遊びの継続がなかなか出来ないことに悩んでいます。

【問1】

今日の保育の中で、子どもが自ら探求したり、遊びが発展するように
物的環境（子どもの動線や準備した配慮・用具の準備）を試行錯誤し
てきましたが、良かった点やもっと工夫できる点があれば教えてください。

【問2】

自分の作品に興奮をもち遊びの継続ができた、他児の遊びに興味を
もてるように、遊びの共有をする時間を設けるようにしていますが、
よりよい方法や改善点はありますか？

【問3】

本日の活動の中で子ども達がそれぞれの思いを表現し楽しんでいた
と思う場面があれば、教えてください。

公開保育では、参加者が「共感したこと」「よかったこと」をピンク、「疑問」
「質問」などをブルーの付箋に書き、模造紙に貼る。

【グループ討議】

- ・ 午前の公開保育を終え、気になった付箋をもとに、その付箋を元に各学年ごと
にわかれてグループ討議を行う。
- ・ 各学年担当者がグループ討議をもとに発表を行う。



【助言者のまとめ】

ECEQのシステムを利用した公開保育で、何度かの園内研修などのStepを踏んできた。ECEQの問いづくりは保育者の願いを具体的にすることから始まり、この願いや思いを実現するために環境整備をしたり援助をしたりする。ベースは子ども理解である。課題意識を持って「自分の保育をよくしたい」と思い試行錯誤することが大切である。

白藤幼稚園の公開保育では、子どもがやってみたいことを大切にしている保育が読み取ることができる。環境から、子ども達がいろんなことを考えているということがわかる。白藤恐竜博物館の活動では、学芸員が来園し園児の恐竜に対する興味・関心をもった。恐竜発掘コーナーに留まらず、恐竜レストランでやりとりを楽しんだり、恐竜鉄道で行き方や乗り物について広がっていったり、「恐竜」という一つのテーマからも学んでいることが様々で、プロジェクトアプローチで活動が広がっている。子どもがそれぞれもっているものを大切にしている。その経験は子ども達に、何かしたいときに支えてもらっているという気持ちを育む。自分の思いを大切にしてもらった子は、相手の思いも大切にできる。公開保育の開始早々に蛇が登場した場面では、子どものそれぞれの姿や反応が見られた。保育は偶然起こったことを教育化することであり、これがまたつながっていったらおもしろい。

子ども理解にあたっては、ドキュメンテーションなどの写真や吹き出しを用いて子どもの言葉や気持ちを文字にすることも有効である。吹き出しを付ける時には自分の書きたいことを書いても子どもの育ちを見ることが合出来ない。子どもの声を拾い、子どもの声を想像できるということは、子どもにきちんと心を傾けているからこそ読み取れるものであり、言葉にならない子どもの声を引き出すこともできる。また、子どもの遊びの中にどんな育ちがあるかを探り、資質・能力を高める必要がある。指導要領や教育課程・5領域などからの園として育ててほしい上からのねらいと、こどもの姿からねらいを立てた下からのねらいをたて、事実から検証し、子どもの姿から振り返ることも重要である。

子ども達が主体的に試行錯誤し様々な経験をするためには、そこで働く先生たちが主体的で試行錯誤し、工夫できる環境であることが大切である。園が変わるためには先生一人一人が自分の思いを出せる環境であり、安心感があることが重要である。

公開保育を受けて、アドバイスをもらったり、ヒントを得たりする。それやってみようとするのが大切である。イチローというすごい選手でも打率は3割である。どれが子どもに合うかはわからないが子どもの興味・関心を使って育っていくにはいろんな挑戦が必要だ。0から1は生まれにくい。環境がとても大切であり、主体性を育むためのモデルや環境を発信することは重要な役割である。